

短時間・単発で働くスポットワークの求人倍率は3.50倍

スポットワーク平均時給は1,312円

- スpotworkマーケットデータレポート（2025年9月度版）-

株式会社ツナググループ・ホールディングス（本社：東京都中央区、代表取締役社長：米田 光宏）を母体とする、多様な働き方の調査研究機関「ツナグ働き方研究所（拠点：東京都港区、所長：大野博司）」は、ここ数年で広がりを見せる「短時間・単発で働くスポットワーカーの市場」について定点観測する「スポットワークマーケットデータレポート」を毎月発表しています。

本レポートでは、2025年9月度最新データについて、とりまとめましたのでご報告いたします。

※レポート詳細はこちら https://tsuna-ken.com/research_report/202509_spotwork-9/

【トピックス】

1. スpotwork求人倍率は3.50倍で、前年同月より0.96ポイント伸長。
2. 新規ワーク数は70,526件。前年同月比は16.1%減と、5か月連続で下回る。
3. スpotwork平均時給は1,312円。10か月連続で通常アルバイト平均時給を上回る。

■1：スspotwork求人倍率は3.50倍で、前年同月より0.96ポイント伸長。

2025年9月度のスspotwork求人倍率は3.50倍となり、前月から0.90ポイント上昇しました。例年、9月以降は年末に向けてスspotworkの需要が伸びる傾向があり、そのトレンドどおり前月を上回る結果となりました。前年同月からは0.96ポイント上昇し、16か月連続で前年同月を上回っています。

第II章 スpotwork求人倍率

Research materials

スspotwork求人倍率推移/2021年9月～2025年9月



出典：里発バイト求人サイト「ショットワークス」2021年9月～2025年9月データを加工
■求人件数：ショットワークスにおける当月のワーク出稿数 ■求職者数：登録者の応募UU数

■ 2 : 新規ワーク数は 70,526 件。前年同月比は 16.1%減と、5か月連続で下回る。

2025年9月度の新規ワーク数は70,526件となり、前年同月比で16.1%減となりました。これにより、5か月連続で前年同月を下回る結果となっています。主要3職種のうち、運送・ドライバーが前年同月比で27.9%増となり、唯一前年を上回りました。

主要職種別（※1）新規ワーク数・伸び率推移/2024年9月～2025年9月



出典：単発バイト求人サイト「ショットワークス」2024年9月～2025年9月データを加工
(※1) 当研究所では求人件数の規徴が大きい仓库内・倉庫外、コンビニスタッフ、運送・ドライバーを主要職種として定義しています。

■ 3 : スポットワーク平均時給は 1,312 円。10か月連続で通常アルバイト平均時給を上回る。

2025年9月度のスポットワーク平均時給は1,312円で、前月差+6円、前年同月差+136円となりました。通常のアルバイト平均時給は1,272円で（※リクルート発表「アルバイト・パート募集時平均時給調査」）、スポットワーク平均時給との比較では、スポットワークが40円高いという結果になっています。

スポットワーク平均時給の推移/2021年9月～2025年9月



出典：単発バイト求人サイト「ショットワークス」平均時給2021年9月～2025年9月データを加工

(出典)

単発バイト求人サイト「ショットワークス」2021年9月～2025年9月データ

総務省統計局「労働力調査(詳細集計)2025年(令和7年)7～9月期平均」

リクルート「アルバイト・パート募集時平均時給調査」

■スポットワークマーケットデータレポートとは

・スポットワークマーケットの定義

スポットワークとは、短時間・単発で働き「継続した雇用関係」のない働き方を指します。その中でも、雇用契約を結ばない“ギグワーク”と、単期雇用契約を結ぶ“単発バイト”的2種類に分類されます。(ギグワークの代表例として、ウーバーイーツ配達員が挙げられます)。こうしたワークスタイルで働く個人、活用する企業の市場がスポットワークマーケットです。

・マーケットの現状

スポットワーカーは、コロナ禍を契機に急増、今後さらに広がりを見せていくことが予見されます。

個人) 働き方改革による残業規制、コロナ禍による休業や勤務時間減少で、追加就労意欲が増大

企業) 生産性向上観点から、ムダやムラのない=必要な時に必要な人数を配置する人件費最適化の高まり

技術) タイムリーかつオンデマンドなマッチを提供するスポットワーク求人事業者の参入

・定点観測する意義

総務省統計局の「労働力調査」では、2018年からILO基準の「未活用労働指標」を導入しました。例えば、その中にある「追加就労希望就業者」は「広義の失業者」とも言われる労働者です。現状の就労に追加してスポットで働くことは、労働者の収入安定、すなわち広義の失業率の改善につながります。一方、マクロ的に捉えると、潜在的な労働力活用は国力の向上に寄与することになります。こうした社会的意義と接続する観点から、本マーケットを定点観測し、市場規模の動向、有益なトピック、内在する課題などを可視化するデータレポートを発信しています。

■ツナグ働き方研究所とは (<https://tsuna-ken.com/>)

株式会社ツナググループ・ホールディングス(本社:東京都中央区、代表取締役社長:米田光宏)を母体とする、2015年設立の多様な働き方の調査研究機関(所長:大野博司)。研究所では、企業人事や労働法制の分野で活躍する識者らとともに、施行される労働法制の要所と着眼点を解説していくほか、改正に至るまでの経過や背景も記録・分析しながら「あるべき姿」を提言。「働く」を取り巻くあらゆる労働法制の調査・研究機関として「雇用の未来」を拓きます。

【ツナググループ・ホールディングスについて】

社名:株式会社ツナググループ・ホールディングス(東証スタンダード 証券コード:6551)

所在地:東京都中央区銀座7-3-5ヒューリック銀座7丁目ビル7・8階

代表者:代表取締役社長 米田光宏

設立:2007年2月

URL:<https://tghd.co.jp/>

日本の社会課題である「2030年労働需給GAP解消」を目指す、ソリューションカンパニーであるツナググループは、コンサルティング×RPO(採用業務代行)×データベースを基軸事業として、従業員1,000名を超える大手企業を中心にあらゆるソリューションを提供しております。

【本件に関するお問合せ先】

株式会社ツナググループ・ホールディングス

ツナグ働き方研究所 担当:和田

Mail:tsuna-ken@tsunagu.co.jp